SpringX KNOWLEDGE CAPITAL　超学校（ナレッジキャピタル）　CiDER 大阪大学 感染症総合教育研究拠点

エビデンスと共に考える「いのち」と「くらし」を豊かにする講座

第11回

変わる行動、変わらない心
コロナ禍の社会心理

会場参加（※事前申込要）／ オンライン参加（申込不要）

2024年2月16日（金）19:30～20:30

・会場：グランフロント大阪 北館 2F SpringX
・オンライン：YouTube Live

エビデンスと共に考える「いのち」と「くらし」を豊かにする講座

大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)は新型コロナウイルスのパンデミック後の社会や将来のパンデミックをみすえて、科学的根拠（エビデンス）と上手に付き合いながら、私たちの「いのち」と「くらし」を豊かにする術（すべ）を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
大阪大学のさまざまな分野の研究者が、中学生から大人までを対象に、わかりやすく解説する全12回のプログラムです。

講座概要

今回の講義では、コロナ禍での人々の心理的側面に関する最新知見を紹介!
国内パネル調査に基づいて、コロナ禍での主要な2つの政策下で人々の心理・行動がどのように変化したのかを紹介し、コロナ禍におけるワクチン接種や感染対策を巡る人々の対立について、8か国の国際調査の結果を報告します。
また、コロナ禍での社会心理学の役割について、若手研究者とシニア研究者が一緒に議論します。

講　師

山縣 芽生　同志社大学文化情報学部 助教
（兼）大阪大学CiDER 連携研究員

博士（人間科学）。道徳的価値観に沿った行動によって生じる弊害や、非常事態下における人間の心理変化などに関心を持ち、オンライン上でのパネル調査を中心に統計解析を行っている。

村上 道夫　大阪大学CiDER 特任教授（常勤）

博士（工学）。専門はリスク学。著書に「基準値のからくり―安全はこうして数字になった」（講談社ブルーバックス、共著）など。

小林 智之　福島県立医科大学災害こころの医学講座 助教

博士（心理学）。社会心理学を専門とし、主にスティグマ、社会的アイデンティティ、集団間葛藤といったテーマに関心を持つ。最近は原発事故やパンデミックにおける人々の対立について研究している。

三浦 麻子　大阪大学大学院人間科学研究科 教授
（兼）大阪大学CiDER

博士（人間科学）。専門は社会心理学。コミュニケーションやインタラクションが新しい「何か」を生み出すメカニズムを解明することに関心をもつ。感染禍をはじめとする緊急事態という「状況の力」が人間の心理・行動に与える影響について主に量的アプローチで検討している。

2月16日開催講座の詳細・
会場参加申込・オンライン視聴はこちら ▶

過去の講座は
アーカイブ視聴できます。 ▶

主　催　CiDER（大阪大学感染症総合教育研究拠点），一般社団法人ナレッジキャピタル

問い合わせ　大阪大学感染症総合教育研究拠点 事務室（総務担当）　06-6879-4903　kansensyo-soumu@office.osaka-u.ac.jp